

なぜ、今 「脳卒中・循環器病対策基本法」が 必要か

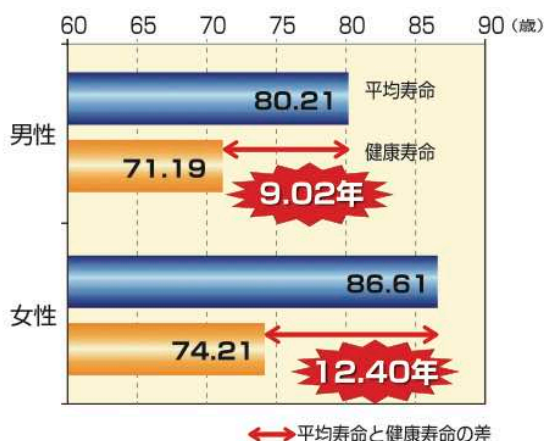
脳卒中・循環器病は日本国民の **脅威** です

「健康寿命の延伸、医療費・介護費の削減」を実現するために
以下のような対策が必要

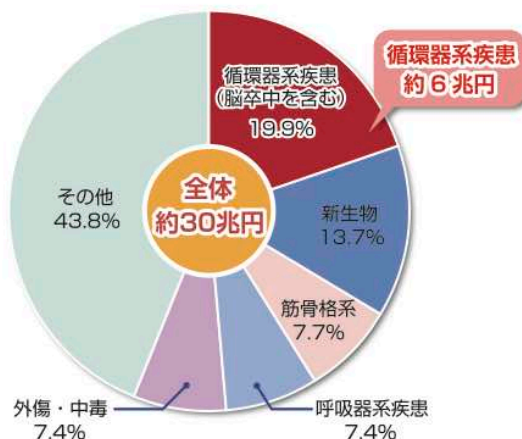
- 脳卒中・循環器病で年間33万人が死亡している
- 超高齢化で患者数が増加する一方
- 脳卒中・循環器病に関わる医療費は全体の20%、6兆円。増加の一途

- 救急治療とリハビリテーションで生活の質を大きく改善できる
- 脳卒中对策をすることにより、寝たきり・認知症対策になる
- 予防法の普及で発症が減らせる

平均寿命と健康寿命の差（2013年）



医科診療医療費に占める循環器病の割合
—医療の質を落とさない医療費削減—



平成27年 国民医療費の概況より

脳卒中の3つの大問題

寝たきり

寝たきり原因の
3割以上
(認知症を含めると6割)

認知症

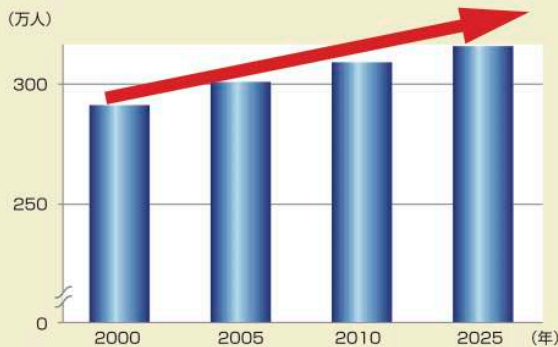
原因の**約2割**は脳卒中
脳卒中予防は
アルツハイマー型認知症
の予防に繋がる

社会負担

医療費 **約1兆7千億円**
介護費 **約1兆9千億円**
患者は250万人以上
年間12万人が死亡

命と暮らしを直撃する病気である

我が国の脳卒中患者数の推計



推計患者数(2010年)

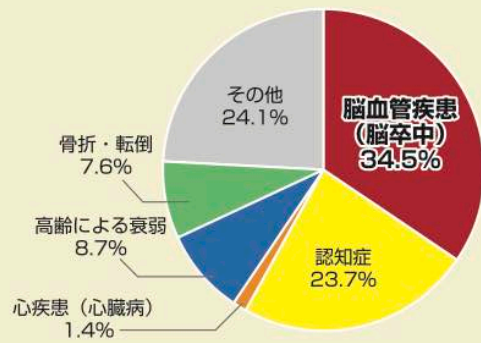
- ・発病者数 291,000人/年
- ・有病者数* **約3,100,000人**
- ・要介護者数 約1,850,000人

鈴木一夫: 日本臨牀 64: 32, 2006

今後ますます増加し、入院期間も長く、医療費、介護費も増加する。

*年間発病者数と後遺症患者数の総数

我が国における寝たきりの原因



寝たきり(要介護5)の原因

- ・3割以上は脳卒中が原因
平成25年(2013年)国民生活基礎調査より作成
- ・認知症の1/4以上は脳卒中に関連
- ・脳卒中の予防は、認知症の6割を占めるアルツハイマー型認知症の予防にも貢献

認知症疾患診療ガイドライン2017

**脳卒中の予防と後遺症の軽減には
知識の普及が不可欠**

↓ そのためには…

- 教育・市民啓発による予防と発症時対応教育
- 治療体制の整備による救命と後遺症の軽減、再発予防
- 連携による継ぎ目のないサポート
- 患者・家族支援による社会復帰の促進

↓ その結果として…

- 後遺症の軽減・健康寿命の延伸
- 医療費・介護費・国民の負担の軽減



患者の声

知識がないから、「こんなことが起きたら、それは脳卒中! 人生の崖っぷち」と気づけない。だからすぐ病院に行かないで様子を見てしまう。啓発によって、後遺症を持つ患者を減らすことができるはず。それは職場に復帰できる人を増やすことにもつながります。

家族の声

家族の精神的、肉体的、経済的負担が大きく、自分の時間も制約され、介護負担感がとても大きいです。



循環器病 4大疾患

心不全

5年間の**死亡率50%**
心臓の動きが
だんだん
悪くなる病気

急性心筋梗塞

突然死や
心不全の
原因となる病気

大動脈解離

働き盛りの
命を突然奪う
危険な病気

不整脈

脳卒中や
突然死の
原因になる病気

命に関わる病気である

心不全は年々新規発症数が増えており、「**心不全パンデミック**」状態にある。

心不全になると入退院を繰り返すことが多く、本人はもとより**家族・社会の負担も大きい。**

心不全は突然死のリスクも抱える、「**たちの悪い**」病気。治療には**多大なるコスト**がかかる。

我が国における心不全患者

日本の心不全患者数
約100万人



先進国ばかりでなくアジア・アフリカの諸国でも心不全患者が急増している
Okura Y 他: Circ J: 2008より作図

脳梗塞の1/3は
不整脈(心房細動)
が原因となっている



心臓病は予防ができる

そのためには…

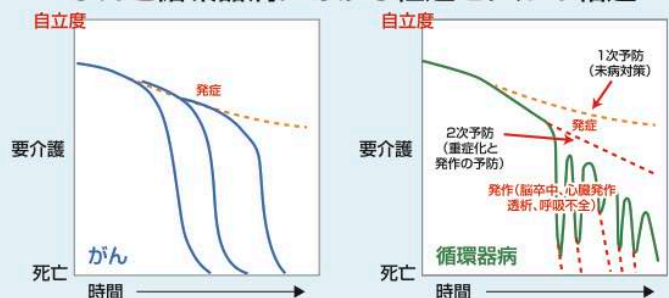
- 啓発活動
- 検診システムの充実
- 心臓リハビリの普及
- 治療の均てん化、救急治療の拠点化、疾病登録

その結果として…

- 健康寿命延伸
- 生活の質向上
- 医療費の節減
- 要介護の減少

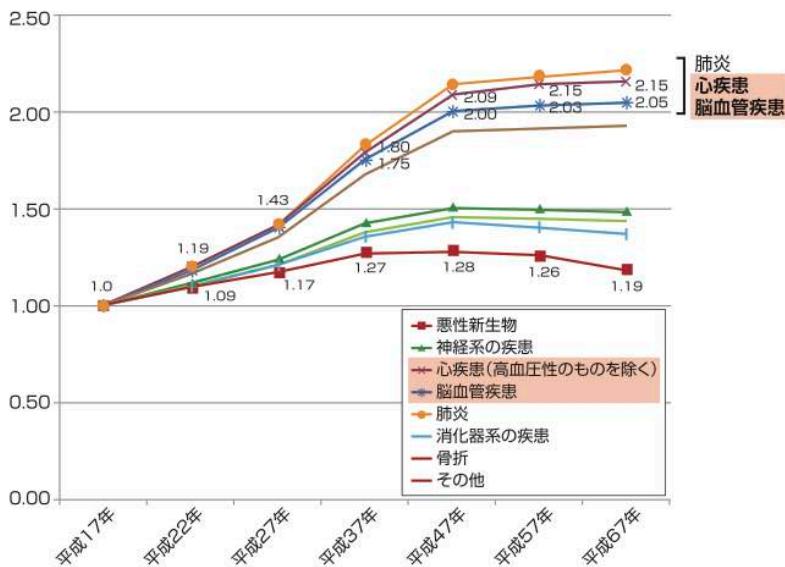
2025年には
新規心不全は
約**37万人**発症

がんと循環器病における経過モデルの相違



■ 社会保障費節減を目指して

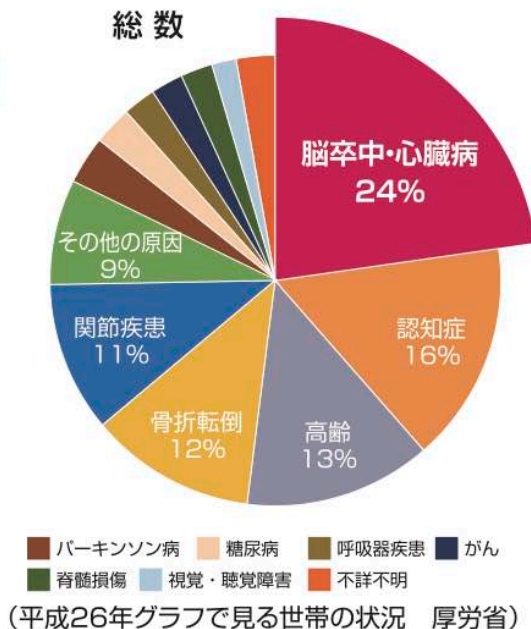
入院患者の将来推計
2005年を1とした場合の増加率



国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計及び患者調査から作成

■ 要介護の減少を目指して

脳卒中・循環器病は要介護・要支援の原因の**24%**を占めている。



■ 法律が制定されると…

- 継続した国民啓発により**脳卒中・循環器病が予防**できる
- 救急治療とリハビリテーションの普及により**健康寿命**が延びる
- 新しい**治療法の開発**ができる
- 脳卒中・循環器病の登録による疾病対策と**医療費・介護費削減**ができる
- 介護費は増加の一途で、その1/4は**脳卒中・循環器病に起因**している

これからの超高齢社会に向け、国民へのより良い医療の提供を目指して

脳卒中・循環器病対策基本法の制定を求めます。



脳卒中・循環器病対策基本法の成立を求める会

■ 代表 山口 武典(公益社団法人日本脳卒中協会) 矢崎 義雄(公益財団法人日本心臓財団)

■ 公益社団法人日本脳卒中協会
〒545-0052
大阪市阿倍野区阿倍野筋1-3-15
共同ビル
TEL: 06-6629-7378
<http://www.jsa-web.org>

■ 公益財団法人日本心臓財団
〒163-0704
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル4F
TEL (03) 5324-0810
<http://www.jhf.or.jp>

■ 一般社団法人日本循環器学会
〒100-0011
東京都千代田区内幸町1-1-1
帝国ホテルタワー18F
TEL: 03-5501-0861
<http://www.j-circ.or.jp>

<http://www.junkankitaisaku-motomerukai.org>